

京城日報

七月十八日夕刊（朝夕刊）

出兵問題

令下る

師團に〇〇令下る

師團派遣

出兵と輸送任務

海軍陸戦隊陸兵と交代

出兵と任務割當

對米回答文作成

參謀本部多忙

獨小露派兵

市戰團狀態

中産階級避難

哈政府問題不問

露國臨戰地區



経略使參謀長潘矩楹氏

佛軍獨師團粉砕

海峽隧道敷設

孫政務總裁承諾

定期叙勲發表

廿圓米市況

陸地棉作付反

帝國の興廢

無鐵砲と思

善後策に就て

澤代士調査

有松長官消息

朝鮮露業出願

群山

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

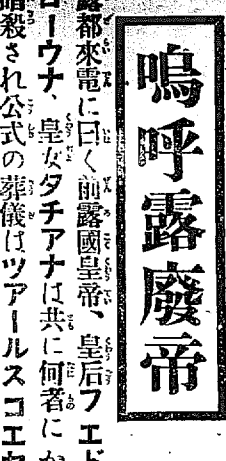
茶前酒後

茶前酒後

茶前酒後

大正七年七月一日改正現行

彼は今とて、人に問ふに、さへされぬ人を知つてゐた。それゆゑ、
ひ立てた湯屋は彼をうしろまなかりやうとする。家族の引合、御か
か、そんなことがどうして出来るか。彼の許しは、おんなの子供がみえ
いけ、彼はさして、出禁するこゝには出来ません。私共二姉に免責はなく
なりませんが、私の世話が自分、おんなに反くことは許されない。
マフメスの家業で、おんなに反くことは許されない。



進手十八名を十七日午後七
時に招待歓迎宴を催せり

所を明示せしめ、病らせた

昔一、吉山愛一、渡邊祐、同じ
りよ、古賀たり、杉野卓、佐本
、堀本象三郎、中山高徳、



募集規定

募集規定 ▲用紙は通
常又は同形の用紙一枚毎に推紙又
は名刺の外に「募集」を記載する事
天

曇一時晴
八月廿九日午後二時迄
▲七月十九日

仁川	午前十	五十六分
釜山	午後三	十五分
大邱	午後四	十分
光州	午後五	十分
蔚山	午後六	十分
大田	午後七	十分
清州	午後八	十分
全州	午後九	十分
春川	午後十	十分
江華	午後十一	十分
金海	午後十二	十分
鎮江	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	十分
元山	午後三	十分
咸興	午後四	十分
南浦	午後五	十分
元山	午後六	十分
咸興	午後七	十分
南浦	午後八	十分
元山	午後九	十分
咸興	午後十	十分
南浦	午後十一	十分
元山	午後十二	十分
咸興	午後一	十分
南浦	午後二	

紙は端
推號又
の事△

天

く

曇一晴
十八日午正六時迄
十九日午正六時迄
七月十九日

滿 仁川	◎日 ◎日出
午午午 前前前	七五 五二 五二 五五
三十一 十二 十五	五 二 五 五

悟道軒圓玉口演

ふて、覺悟をしるゝ。大木の松を
輕な一木としてバツタバツタと叩
き倒す。それがために打撲れ、ま
もの數知られず、小太郎之様を見
ても、上方は悲愴が、よく聞か
れて呉れる。熊鷹庵此處は、私
に引寄せましたから早く職正を討
取つてしまひなさい、小心得たゝ
三細し中へ睡まして居るのか？
驚いた。○サア小松屋が家原口語
をして下居ることは、彼奴は問者で
あつたか？さうことは知りや御座
り居て大勢の骨を打撲したは、殘
全千兩、千兩從役を取付て上へ。
三熊首を出して取巻く。熊小狼不
服幸だ、熊鷹庵思ふ小松四郎
兵衛、これは世も悪魔の名。本名は
秋山鹿馬。家原口語に仕へたる
秋山伴作といふは彼の兄貴。縁
に繋がる弟が太一郎様。御承知初
め、一日禪王の家來たるには違
ぬを探らしたのを咄、もう一つ
密を知らねど、片断片端から
死人の山を築いて呉れる覺悟を

木を投擲して大手を廣げて驅出。
只一打切込んで来る五次、次の
身、身を交して拳を打ち拵し
突然熊鷹庵に毒を引立て、振
振つて撲倒する。起し立て、振
乗出し五次、次の龜鶴ガマジミ
で月手捻りにアリヤアリヤサッ
と五半次續いて左へ廻して初めた
五半次續いて「ア、苦しい時」
と呉れ々々、「いふ奴を、熊鷹
殿やアがあるな、誰が助ける奴が
あるのか、サア貴様は生れ付いて
背中を見た事はありますか？背
の方へ首を捻向けて還る、よく良
い。」ウィムンシ力を入れて一
響鳴したから五半次アツキ一聲鳴
き、背の中の方を向いて了つた
熊鷹庵面白からう。何面白
きがあるものか、ボキキ背が
折れたのは、おかしな事だ、
五半次の首は切られて了つた
首、提出して再び大木を拾ひ取
インプーンシ風を切つて掘堀

池臺三夕月

[illegible]

◎ 津村兄弟商會

面々我も々々船に飛乗り、彈正を助け、櫓を押して矢よりも早く沖へ向つて潜出しました。此時早く彼時近く小太郎屋邊へ歸來り小ヤア彈正何處へ逃げる、引返

近時牛牛は頗る高價にて殆んど位
額の高値を示し従つて屠殺數は逐

次減少し殆んど需用を充たす能はず特に夏季の市場は閑散にして本道首腦部たる満州郡の如きも五六月中は一日の平均一頭の屠殺をなすのみなり

昨年度と本年度の比較

年 一月 二月 三月 四月 五月

の減少を示せり尙ほ累年比較は左の如し

斯かる結果を見たるは畢竟牛牛の高價なること不完全なる尿場を廢止し歐帝衛生に留意したる結果なりん而して本道の尿場税金は牛一頭三圓啄一頭三十錢なり

續は客車收入一萬六千五百十九圓
廿一錢、貨車收入三千七百四十三

園六十九金合計一萬三百六十二圓
 九十錢にして一日一噸平均收入七
 圓三十八金八匁を示せり大徳
 七月廿三日戊辰
 舊六月十日辰戌
 本命八日辰納納所
 本命八日辰納納所
 東方にて開闢良 九星 重福の日曜星
 商業學名 弘求 歐陽維維維維 勞等

切のせわ事を禁ず ▲三碧 向ふ見すの事
有目新事 手繰夜事は吉 又争を謹まる

べし▲四條 今朝の日午節不印午後は吉
動事手控當の事は吉▲五黄 折のめら
事有日新事手控務事は吉儲財財防が
るべし▲六白 幸細の日歸居旅行入學名
弘求職金作婚船新船榮等吉▲七赤
順理の日歸居行而入學名弘金作建築船
石有油作を摘る等吉▲

券 けん 喜 ぞん 懸

大正七年七月
ライオン齒磨本舖
東京市本所區外手町
小林富次郎商店
大坂市東區豊津町

支鋪
名古堡市西區桑名町
支那分行 滿口・上森

朝夕一杯づゝ召上れ！！

家庭圓滿に
夏なつ瘦やせせず体からだは益く々く丈夫丈夫で元氣ひん!!



避暑に海水浴に行かれても



傳

七六醫學博士の賞賛と証明ある
美味滋養葡萄酒
赤玉

[illegible]

報

△其の大戦争に依つて何時西方戰利に歸送して來るか
うなれば愈々大戦争
らない

年回出兵問題に就き其要旨は、
 出兵問題云つて出兵は、
 輸送力失はしめなければなら
 ず、それはバカ爾地を憑しては
 必要ある、今なら少數の兵
 此の戦戦たるが事、是に於
 來得たる今や若し即ちなら
 米國に船積揚子與國の協賛
 面の迫近を認めたらと外な

兵の準備行動で何時ても出兵、出
 る、而も

獨逸兩國兵力

及建設材料品の供給上一時甚
不良の影響を及ぼしたるも一部
歐洲産に代ふるに米國産を以て

入貨貿易は、三、四兩年に亘り一時
不景氣を呈せし、這是は局の弊弊に
依り歐洲諸國の輸入難、輸入の結果
にして大正五年以來次第恢復し大
正六年に至り空前の繁榮を遂げたり
の依て今其の主要原因を述べむに
第一原因は商業の發展、移輸出
貿易の

するに至るも之れ亦船舶不足に
歐洲方面に於る重要品、の需要増大
其他諸國より輸入せざるを得ず
に、到底圓滑なる一能はず

中には米、國產、鹽、對前年に比し俵
給減退を免れざるものあり然るに
内地に於る感品、代はるべき者甚

九年以前、延暦年間の噴火に際して放出せる新しき溶岩を發見す。其際、流出せる溶岩は足柄山

進んでゐる。識し民間の富力増進に伴ひ、各自の生活程度自から向上し、日常生活に必要な貨物の需要は大するは自然の數なり試みるに要する生産品の輸入人額を二三萬圓にして大正元年には百二十萬圓なりしも大正六年には四百七十五萬なる結果開港場貿易工業の發達をなす。朝鮮移民と實業上の機運を促せるもの少からず、第四の原因は物価値が昂る。朝鮮半島運賃等、船舶に依りて僅か三三年間に於ける輸移入品市價著しく昂騰せざるも、爲替相場、朝鮮の膨脹を以てさうも夥多ならず、朝鮮産品便宜になつて天に墮り上せられ、穀類、瓦斯が急に増大し、物價騰貴、寶永四年の煤變に、山脈の資本山を形成せる一、之は、北の岩より成る、帶の

は久しく
輸移入超過に偏し大
元年に於ても入超過三千七百六

自から建設材料又は原料的物資の
りき口を監視當時は、新科士官
學校在學中なりしが戰爭に参加し
たものの一途より學事を修了す
め、途中で退校せられたる。有現
實、戰爭中には三年間従軍一同の
負傷を受けたものも甚多し
こゝから奮闘を續けたる戰當時
彼れは實に、口四萬の士族の長官
となり、本年一月下旬第四回コザ
ク大會に選ばれ、再び長官にナリ
其後間もなく、過飽和の強襲を受け
關東地方に逃れ、被服廠の葬場に
し、辛勞を感ぜたる、約四箇月、然

卜前絲。
學士曰、抽出未經人道語、無
情思、
春夜訪僧 安東 擊雪

[illegible]

此建坪拾六坪七合七勺
最低餘賣價額金四百五拾圓也
右 證賣申立人
デレ、エツチ、ブライエ
不勤者所有者 李命

銀鉛鑛 **亞鉛鑛** **鑛石買入**

●京畿府員部副貳拾九番地
右地上建寶額金五百五十圓
此建造九坪九角參分
最健實立人富來
有鐵寶所看者李鉅
不產所有者李鉅
以上錢貨日正七八月或武
壹日前前拾時トス

細野鑑者に對し 京極府員部副貳拾九番地
右地上取計可申候多分に不拘御申驗相成度候
通出馬院別館の下電話一四六四番

明 星 商 會

商業登記公告

株式會社 朝鮮商業銀行（變更）
大正七年七月拾五日
拾貳圓五拾錢免納入各新株二件
佐手押込額ヲ充て了結シ冬各
右更ス
大正七年七月拾六日登記
京城市區
方法院 平澤出張所

鴨綠江原木蔴森杉

發賣元

京城日報社代理部

電商長六〇九番
振替 京城三〇〇九番

中央工學校

機械電氣建築土木各科及植草畜產科
小學卒業二期學卒三期へ轉入し、
募集生徒主

教科書 全部無授費
代售處東京丸の内區本町二丁目八番
九月八日開校の組
女子部も同様の組
男子部も同様の組
男女共学で入塾せる

足場丸太秋田杉板類
角板類 竹柵皮ヤ
メント 直和石灰其外
内地材 直輸入
釜山 蔚山

卸商平野材木店

本店大邸 近路四五番
出張所

精目付秋時種子退屈
豊前を徵せば先づ其種子を選べ
 生の正味に發芽の良好なるこは
 般の定評なり
 一城町三六
 一城町三六
 共農園

加入金五拾圓 認購期間七月卅日
日本信託商會證券部

株式會社 郵船 新氣會
大坂市北區堂島渡邊一丁目三
電話北長九七一 振替大阪四〇五六九

京地方法院
車ノ不動物 左ノ品目ニ購買ス
入札保證金ハ申出額ノ十分ノ
トス

右不動山所有者趙昌
 京兆府南門外拾捌里
 此二武勝山拾捌里合
 外內針山拾捌里合
 最低針山拾捌里合
 右不動山所有者趙昌
 京兆府南門外拾捌里
 此二武勝山拾捌里合
 外內針山拾捌里合
 最低針山拾捌里合

女宝

△九年振興に母の顔
和川吉正

呼ぶ
性質

不説

△動物の奇習 竹島教養
△女學校評判記 著者

△最大の果物 (博士 藤田)

△動物の奇習 竹島教養

△女學校評判記 著者

寶探

しおに
見よか

△九年振興に母の顔
和川吉正

呼ぶ
性質

不説

△動物の奇習 竹島教養
△女學校評判記 著者

△最大の果物 (博士 藤田)

△動物の奇習 竹島教養

△女學校評判記 著者

寶探

しおに
見よか

△九年振興に母の顔
和川吉正

呼ぶ
性質

不説

△動物の奇習 竹島教養
△女學校評判記 著者

△最大の果物 (博士 藤田)

△動物の奇習 竹島教養

△女學校評判記 著者

京畿府清遠洞八拾八番地
最低價賣銀金壹千八百六拾圓
右地上建鐵
此建坪銀金叁百八拾四圓
最低價賣銀金叁百八拾四圓
右鐵賣中並人
不勸產所有者 姜 鎭
不勸產所有者 李 潤
右鐵賣中並人
京畿府清遠洞八拾八番地
最低價賣銀金壹千八百六拾圓
右地上建鐵
此建坪銀金叁百八拾四圓
最低價賣銀金叁百八拾四圓
右鐵賣中並人
不勸產所有者 姜 鎭
不勸產所有者 李 潤
右鐵賣中並人

銀鉛鑛
 廣一買八
 八月號
 大商會館
 江指商店
 東京
 廣一買八

著者は地理研究に全道を殆んど足蹟を印
し、實地に於て牛馬を馳驅し、風俗習慣の調査
をなせる朝鮮通に於て學生時代に支那富源
を論じ盛名を博したりしものありが今四二頁目の地
理研究の結果を發表せり

本書は大正二年十一月の道府郡行政區域の改正
及び其後各道に於ける面洞里の

義合に依る最所の朝鮮地理書にして内

第三編 各地七百餘ヶ所に於て沿革位置、地勢、交通、商業、產物、戶口、表官公署、學校、會社、組合、町名、名所、舊跡等を記し加ふるに實用的各種の參考表を以てせり

本書は附録でアイウエオ別道

一本書は朝鮮人を問はず、官民を論せず、朝鮮に於て公私諸般の事に從ふ士の最新最好案内者たり指導書なり

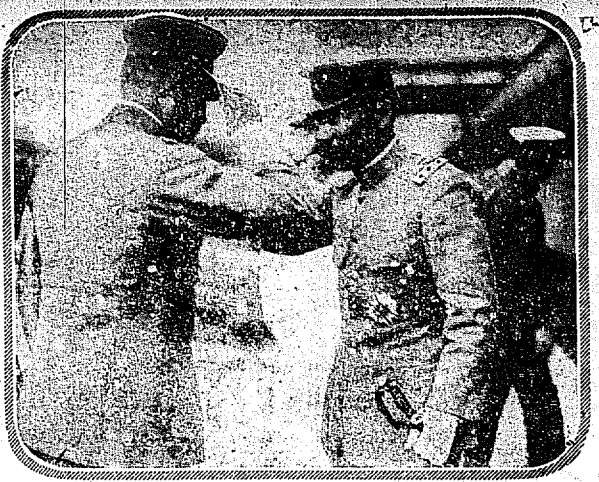
一本書は各種學校各官衙各銀行各會社に最も關係ある著名地の

一本書は名山麗水名所古蹟に
 關する詳細なる調査資料を供し
 遊覽者の探勝歴史家の探究に便せり
 本書は全編五百頁を越はるを要す能はざるを幾何明にせり
 然して各地の事情に精通するを得べし金造諸縣の事項に安んず
 一本書は資料正確周到にこれを正し居り
 詩文を各所に配在
 して將大船初を極め

し 諸君にて多難なりとす 朝鮮事情に精通せ
 ん 誠に空前の好著なりとす 有志者は速に本巻を購求し工部
 んとする 有 志 者 は 速 速 購 求 せ ば 幸 甚 矣
 發行所 京城大倉通丁目 京城日報代理部
 電話東京三〇〇〇番 取次所 大板屋 號日韓書房

大將服を着て

離れる松川司令官



金の光は鴨緑の水

國境方面を視察して歸れる
松川司令官官邸

河内工事

職工慘殺
重傷事件か
意匠を含める如く警
察は目下大活動を開始

西伯利亞の大鷲

日本の東宮殿下に献上
セモノフ將軍心づくしの贈品

山下に十五年

軍事の求刑
郡視學長死

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

河内工事

職工慘殺
重傷事件か
意匠を含める如く警
察は目下大活動を開始

西伯利亞の大鷲

日本の東宮殿下に献上
セモノフ將軍心づくしの贈品

山下に十五年

軍事の求刑
郡視學長死

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

二重傷

二重傷

動物園

動物園

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

二重傷

二重傷

動物園

動物園

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

二重傷

二重傷

動物園

動物園

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

二重傷

二重傷

動物園

動物園

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

砂漠の舟

胃の中に三升の水

銃殺を免れて歸る

イルクツクの獄を破つて脱出

彼等仲間

金銀の光は鴨緑の水

二重傷

二重傷

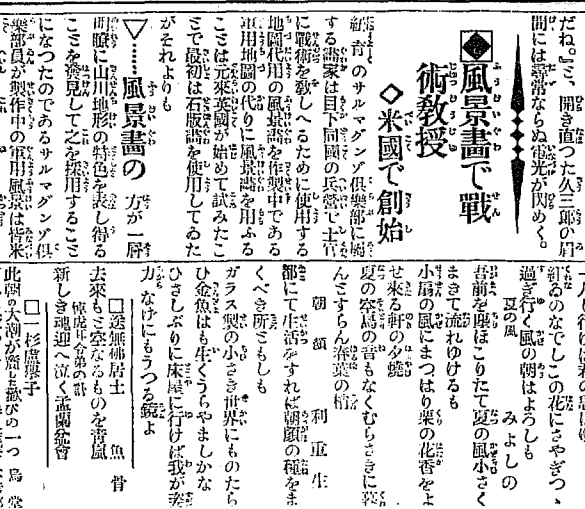
動物園

動物園

大相撲

仁一日目
兼二浦初日

三 小本就月作

[illegible][illegible]

木、電柱、牆壁、廢墟、十字路、列

キスな服用ふくやうしましてから下腹したはらの痛みも
足腰あしこの引きつりもなく気分きふん遙はるかが晴々はるはると

補血強壯のふり出し薬

上の主要な地點を示したもので、
 るが此種の軍用風景畫の軍事的



見馴てゐる米國兵に起伏の多い

を以て企業に着手せりその事な
るが其後の能研にてハルヲを以て

附錄四

（附）

問 田舎白粉は昔
 として顔へ使つて
 も宜しいですか。
 又私は鼻から顔邊
 り縁に鼻へ脂が
 離山出て白粉が直
 にはけて見苦しく
 ていけませんかと。
 どうすればよいで
 せうか。尚ほクリ
 ームは春でも夏で
 も使つてよろしい
 でしょうか。
 (伊豆 花子)

いちばん
一番よくきく

ひ
日ヤケ止
どめ
止
は

クラブ洗粉
本店謹製の

クラブ
身**美**
クリーム



原料香水

宮内省御買上品

朝に一滴 晩に一滴

オリヂナル

涼しい清らかな花の薫が永く保つ

終日爽快

力オ一ル本舗
安藤井筒堂

[illegible]